

第 168 回の定例会が 12 月 22 日(火)、日本規格協会東北支部で行われた。参加者は 15 名であった。研究会の運営に関する議題を検討した後、以下の報告があった。

RQES 第二回技術戦略研究発表大会（永田町星陵會館 2009.11.27）への参加報告；武田布千雄（東北リコー㈱）

個別の発表に関するして、予稿集アブストラクトより詳しく、かつ要点を絞ったものおよび、それらに対する質疑応答内容、個別の発表・質疑に関する個人的な感想と意見および、会全体を通じて考えた事・感じた事などが報告された。参加報告を受け、研究会での質疑内容として、技術戦略研究発表大会と言う名前と位置づけにふさわしい発表・内容であったかという質問があった。これに対して、報告者の個人的な感想として、以下のことが述べられた。昨年在『内在化と外在化』と言う目標提示の会だとすれば、今回はそこに至る道筋と戦略的方策の提示や議論があるのでは？と言う期待を持って参加したが、必ずしもそうではなく、全体として、いかに普及・推進を行うかと言う議論が中心であったと感じた。また、同じく、今回も、専門技術を研究している者と汎用技術を研究している者との立場の違いについての議論があったが、どちらが優位と言う事ではなく、相並んで相補的に、技術開発に置ける評価・判断の精度と効率を上げる事が目的であるはずで、対立的議論はやめにして、使えるものは何でも使う的な、統合・融合を目指した議論を進めるべきではないか？との感想が述べられた。一方、当日会場であった、「学会誌掲載論文にはいい物と悪い物があるので、良く見極めて読んで欲しい。」とのコメントに対し、研究会会員から、「外在化を目標に掲げるならば、学会を外部から見る重要な窓の一つが学会誌であるはずで、その事を念頭に置いた審査が行われるべきではないか？」という意見が述べられた。また、発表大会の質疑進行について、ビギナーとベテランの力の差を許容した進行・運営に配慮すべきだとの発言もあった。

議事録：竹花 末起一（TDK-EPC㈱）